「交流教育」グループ

本校舎　幼小学部：日脇春香、三浦由紀子
本校舎　中学部：本館伸太郎、木村美咲、千葉佳絵、柿崎明広
山目校舎小学部：千田徳也、千田萌乃
千厩分教室小学部：安部千恵子、及川美佐江、小野寺希
千厩分教室中学部：千葉悟史、中山陽子、関根ひさ子

1　研究テーマ

「本校における学部間交流について」
～小学部おひさまタイム、本校舎中１・みなトモ交流を通して～

2　研究内容

本校の特色を生かした交流学習のあり方について、既存の校舎間交流の実践を通して研究、考察していく。

①　「小学部・おひさまタイム（本校舎・山目校舎・千厩分教室小学部ハピきら学級）」の実践から
②「中学部交流（本校舎中学部１年・千厩分教室みなトモ学級）」の実践から

3　研究計画

	小学部	中学部	備考
28.5月	顔合わせ、研究テーマについて検討（本・山のみ）		
6月	テーマ、内容の確認・計画立案 おひさまタイム①実施	研究テーマの確認	6/16（木）小学部 おひさまタイム①
7月①	実践まとめ（おひさま各班毎）	本・みな交流会実施	7/14（木）中学部 給食センター見学交流
7月 ②	おひさまタイムについて反省と意見交換	給食センター交流の反省 交流の進め方について確認	
8月	前回の考察についてまとめ	給食センター交流の反省 交流の進め方について確認	
9月	まとめに向けて発表資料検討	9月に向けて資料作成	
10月	研究のまとめ、報告・発表資料検討（グループ全員で）		
11月	おひさまタイム②実施 →中止 小学部	WEBシステムを利用した交流 中学部	11/10（木）中学部WEB交流 11/25(金) 小学部

	中間発表資料検討	おひさまタイム②
28.12月	全体研究会中間発表	12/26(月)
29. 1月	小学部・中学部グループごとまとめ	
2月	交流教育グループのまとめ	

４　成果と課題

（１）成果

小学部では、今年度は残念ながら、１１月に計画されていた２回目の「おひさまタイム」交流は中止となってしまったが、一回目の活動を基に「おひさまタイム」の各活動グループで反省や新たな課題を見つけることができたことは良かった。

中学部では、昨年度交流（給食センター見学、web 交流、千厩作業販売会（本校舎））を踏襲することと、両校舎での事前学習を丁寧に行うことを職員間で確認して、検証を始めた。各行事の事前学習では、お互いの情報を交換し、当日の活動に備えて準備をする中で、仲間意識や行事への期待感を引き出すことができた。行事の後で活動を振り返ると、相手の名前を覚えていたり、次回への期待感を持ったりする様子が見られた。毎回同じ流れで行った事前学習や、事後の振り返りは、生徒にとって見通しの持ちやすい活動となり、限られた時間の中で交流を充実させるために有効であった。

更に、交流を進める中で、参加するメンバーについての検討がなされ、年度末に本校舎中学部全体と千厩分教室との学年毎交流が実現したことは大きな成果であった。

（２）課題

これまでの取り組みから、「おひさまタイム」において私達が目指しているのは、『年数を経て担任や担当職員は替わっていきながらも「おひさまタイム」で相手の存在に気づき、あるいは再会を喜び、一緒に楽しく活動する中で、相手を受け入れ理解しようとする心を育み、自分なりに精一杯かかわろうとしながら、共に成長していく子どもの姿である』、と仮定できる。開校から１０年を前に、昨年度千厩分教室が加わったこともあり、「おひさまタイム」の取り組みは、ここで一度見直される時期にきていると考えられる。

生徒は、交流を繰り返すことで、相手を仲間と認識できるようになる。実際に会って交流することが一番有効であることは間違いないが、本校舎と千厩とで日程を合わせたり移動をしたりすることは難しいので、手紙のやり取りや web 交流を組み入れ、無理のない形で交流を続けることが必要である。

また、小学部の「おひさまタイム」、中学部では今年度初めて全学年で取り組んだ　　「学年交流」は、今年度の『本校の研究主題設定の理由』にもあるとおり、「各校舎・学部が連続した学びの場」となり「各障がいに対しての理解を深める」ための取り　　組みの一つである、と言えるのではないだろうか。

今年度の研究を終えるにあたり、以下の点について、本グループから提案したいことは以下の３点である。

・同じ交流班の職員同士で「直接顔を合わせて話し合える」事前打ち合わせ、（必要ならば事後反省も）の機会を設け、継続した取り組みの一助とする。

・SV ファイルに、小学部では「おひさまタイム」、中学部では「学年交流会」において、実践した内容をいつでも見られるようなフォルダを残し、年度で担当者が替わっても継続して活用できるようにする。

・他学部・他校舎の協力を得て、小学部中学部それぞれの子ども達の様子を発信していく機会とし、本校の将来的な教育活動のあり方を探っていく参考にする。

研究グループとしては、今年度導き出された点を基に、次年度は職員間の共通理解　　を図りながら実際の交流場面を取り上げ、より具体的な取り組みや支援の方法について探って行きたいと考えている。子ども達が他校舎の友達と会えることを楽しみにしながら、子ども達同士の新たな気づきやかかわり合いが生まれ、共に成長を認め合えるような実践をこれからも積み重ねていきたい。

５　参考文献

・文部科学省 HP「特別支援教育について　１０．交流及び共同学習」

・文部科学省 HP「小学校と特別支援学校（知的障害）との交流及び共同学習」

・岩手県立総合教育センターH25 研究発表資料
「共に学び、共に育つ教育」の推進に関する研究
―「交流籍」を活用した交流及び共同学習の取組の検証を通して―